

アジア地域における高齢化への政策強化－高齢化社会の課題と対応－

Strengthening of Policy on Aging in Asia-Challenges of Aging Societies and Policy Responses-

(実施期間：2017年11月5日～11月18日)

1. 本研修の概要

アジア地域の多くの国々において高齢化の進展は著しく、新たな健康課題となっている。わが国は世界有数の長寿国であり、高齢者ケアに関する制度や経験を有していることから、わが国の高齢化対策のこれまでの変遷や現在推進している地域包括ケアシステム等についての講義・演習・フィールド視察を通して、わが国の知見をアジア各国で活用するための方策を検討することを目的とした。



【講義：3-1, 2 講義室】

2. 実施方法

国立保健医療科学院は国際協力機構（JICA）と連携して、本研修を2014年度より実施している。講義に加え、地域包括ケアシステムへの取り組み事例を学ぶための柏市視察、老人保健施設・地域包括支援センター視察、シミュレーターを用いた高齢者疑似体験等を体系的に実施した。また参加国の高齢者ケアの現状についても、プレゼンテーションを通じて情報交換を行った。

上記の全体プログラムを踏まえ、小グループによる課題解決に向けた現状分析ワークショップ、ならびに参加国ごとのディスカッションノートの作成と発表も組み込むことによって、アジア地域における高齢化政策対応の能力強化につなげる取り組みを行った。

3. 参加者

本年度の参加者はインドネシア（2名）、マレーシア（2名）、モンゴル（2名）、スリランカ（2名）、タイ（1名）、ミャンマー（1名）、フィリピン（1名）の計11名であった。研修員は、中央政府や地方政府にて高齢者ケアを担う福祉・社会保障分野と保健・医療分野の中堅職員である。これらの研修員に加え、本年度は、財政的見地から日本の高齢者ケアについて高い関心をもっている世界銀行とアジア開発銀行の担当者4名がオブザーバー参加した。研修全期間を通じて研修員はオブザーバーとも活発なディスカッションを行うことができた。

< 科学院での活動風景 >



【高齢者体験：階段】



【グループ演習：3-1, 2 講義室】



【閉講式：第一会議室】